

未来を見据え支え合うことの大切さを訴えたら 地域が動いた！ ～藤枝市の地域づくりへの挑戦～

藤枝市は、平成28年度から生活支援体制整備事業をスタートさせましたが、わずか3年でサービスB、Dその他様々な地域資源の創出に成果を上げました。成果を上げるために藤枝市が心掛けたポイントをお伝えします。

未来を見据え支え合うことの 大切さを訴えたら地域が動いた！

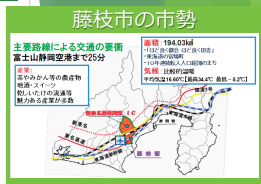
～藤枝市の地域づくりへの挑戦～

いきがい・助け合いサミットin大阪
ポスターセッション

藤枝市 健康福祉部
地域包括ケア推進課

I 概要

藤枝市は、人口144,941人、高齢化率29.4%（H31.4.1現在）、静岡県のほぼ中央に位置する県内第6位の人口規模の都市である。2025年からその先の2050年を見据え、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるための地域包括ケアを目指し、支え合いの地域づくりを強力に推進している。推進の方針は、「既存の資源の活用」と「モデルケースの創出」であり、この方針のもと以下の具体的取組を行い成果をあげている。



II 具体的取組

1 地区社会福祉協議会を母体とした第2層協議体による地域づくり
市内すべての地域（10地区）に設置されている地区社会福祉協議会を母体とした第2層協議体を設置。市社会福祉協議会の第2層SCが地域づくりを支援し、従来から進めてきた「ふれあいサロン」や「居場所」の開設等地域の交流の場づくりを推進している。



2 第1層SCによる課題解決に向けた仕掛け

(1) 総合事業の多様なサービスの創出

既存の居場所や助け合い活動を実践している団体を訪問し、団体の考え方を尊重しつつ、総合事業のサービスへの参入を働きかけた。

(2) 移動支援研究会の立ち上げから移動支援のモデルケース創出

各第2層協議体から上がってきた共通の課題の「高齢者の移動」について、支え合いにより解決するため、藤枝市におけるモデルケースの創出に向けた「移動支援研究会」を立ち上げ、住民と関係団体とともに研究した。

(3) モデル地区指定による地域づくりの推進

「支え合いの地域づくり推進モデル地区」に広幡地区を指定し、地域の支え合いによる「生活支援」「移動支援」「居場所」の創出に取り組んだ。

(4) 週1回以上開催の住民主体の介護予防に資する通いの場の創出

介護予防実態把握事業の結果をもとに、介護予防教室の卒業生への啓発、地域ケア会議の開催による課題意識の共有、支援制度（ふじえだアクティブクラブ）の創設により、週1回以上開催の住民主体の介護予防に資する通いの場づくりを促進した。



III 成果（R1.5月末現在）

1 地区社会福祉協議会と市社会福祉協議会の両輪による資源開発

H29年度当初から「ふれあいサロン」が10カ所（55カ所⇒65カ所）、市社会福祉協議会が把握する「居場所」が5カ所増加（9カ所⇒14カ所）した。

2 サービスB、サービスDの創出

総合事業の訪問Bに3団体、通所Bに2団体、訪問Dに1法人が参入した。

3 移動支援のモデルケース創出

市が住民互助の移動支援を支援する仕組み「地域支え合い出かけっCARサービス支援事業」を創設。2地区が運転ボランティア組織を結成した。

4 モデル地区の成果

わずか1年で広幡地区での助け合い活動、買い物支援、居場所の創出に成功。

5 住民主体の介護予防教室「ふじえだアクティブクラブ」の推進

住民主体の介護予防教室「ふじえだアクティブクラブ」の登録制度とその補助制度を創設。16の介護予防教室が「ふじえだアクティブクラブ」の先駆けとして誕生。



IV 今後の取組

創出した課題解決の取組をモデルとして、第2層SCと第1層SC、地域包括支援センター等が連携し、共通する課題解決に向けた取組の市全域への波及を図る。